

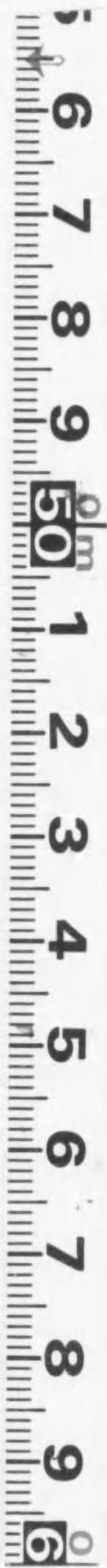
餘技翰墨必携

特<sub>258</sub>

832

39

1.0



始



7号258

832

壽



夏雲多  
奇峯

以宮馬子  
秋野之  
三

仰觀山  
俯聽泉

小存尺子  
秋野之  
三

風如香  
空月滿  
腰

秋野之  
三

共台新  
市

子  
秋野之  
三

青松白雲

秋野之  
三

田代正次書  
克忠克孝

新書  
名垂青史

田代正次書  
五十一  
仰威德

好鳥枝頭亦用友

落花水面皆文章

戊寅清和月

鷺飛林外白

戊寅清和月

蓮開水上紅

秋陽書

萬卷圖書一草堂

戊寅清和月

秋陽書

心日如石情人

戊寅清和月

秋陽書

秋陽書

月東池上花更淨而過  
周林升 霞溪

戊寅初長孫州人白

新鶴齋

古琴浮琴冷以古山  
醒月照標

新鶴齋

雨餘深綠映書檯好煮新  
茶半晚風鳴鐸鐘一  
出車夏賣花聲在路西東

夏日霽晚

新鶴齋

道心

行書  
印

日身法及書法  
詩句何一  
見深林  
歸光寺  
三

行書  
上八

行書  
印

# 凡例

「題辭一斑」は、和漢を兼ね、教育産業軍事風流等の各門に涉り、且なるべく目新しいものを輯めようと思したが、其の邊がなかつた。

出典は意味をとるに必要を限り掲げ、〔 〕を以て書名を示し、格別の理由がなければ篇名に及ばず、作者の名號は故ら通俗を主とした。

「欵識備考」は講義筆記より抄出した「落欵心得」に附するに、「歳時異名」を以てした。

昭和戊寅十二月

編者識



# 題辭一斑

## 二字

冲玄 一其志〔經國集〕賀陽豐年  
 高素 一其致〔同〕  
 敷和 〔本朝文粹〕小野篁  
 澄情 〔同〕三善清行  
 遷喬 〔新撰朗詠集〕大江以言 遷于喬木の註參照  
 勵翼 庶明〔書經〕衆民が上の意を明にさとり  
 厚生 正徳利用一惟和〔同〕民生を厚くし衣食を豊足にす 正徳以下の三者和するは善政なり

聿修 一厥徳〔詩經〕徳を聿べ修む  
 靜嘉 〔同〕潔美をいふ  
 遊息 君子于學也藏焉修焉息焉遊焉〔禮記〕心身を安んじ居るをいふ  
 仁靜 知者樂水、仁者樂山、知者動、仁者靜、知者樂、仁者壽〔論語〕  
 務本 君子一本立而道生〔同〕  
 郁文 周監於二代、郁郁乎文哉〔同〕文物盛なり  
 淵靜 無爲而萬物化一而百姓定〔莊子〕淵の如く靜かなること  
 御風 〔同〕風にのりて遊ぶ  
 學海 百川一至海〔揚子法言〕川の水は日夜に息まざるゆゑ海に至る、人學を勉むべし  
 愛日 孝子一〔同〕  
 溫恭 先生施教弟子是則一自虛所受是極〔管子〕

處安 一而動威〔同〕

逢原 〔孟子〕道の根元を知る

養志 〔同〕養志の孝は養體の孝に勝れり

樂田 其耕者一其戰士安難其百吏好法〔荀子〕

泊如 自守一〔漢書〕私欲にうすき貌

崇業 〔文選〕〔後漢〕張衡

靜觀 心在靜中觀〔唐〕劉禹錫

坐花 開瓊筵以飛羽觴而醉月〔唐〕李白

間適 詠性情者謂之一〔唐書〕閑靜安適なり

環翠 〔宋〕李格非の文に周圍の竹樹をいふ

間澹 兩玩山姿晴對月莫辭一送生涯〔清〕

趙執信

三字

心自得 〔本朝文粹〕兼明親王

紙有聲 奮筆行行一頼山陽

神國幹 松下雖陋村響爲一吉田松陰

寬而栗 直而溫一〔書經〕栗はつゝしむこと

則不遠 伐柯伐柯其一一〔詩經〕

成人美 君子成人之美〔論語〕

溫而厲 子一威而不猛共而安〔同〕溫厚なる中

嚴しき所あり共は恭なり

思無邪 〔同〕心情發露して飾る所なし

游於藝 志於道據於德依於仁一一〔同〕

身中清 隱居放言一一〔同〕行清らかなり

毋自欺 所謂誠其意者一一也〔大學〕

去無用 一之費聖王之道〔墨子〕

儉則富 力而一一〔管子〕

教不倦 孔子曰我學不厭而一一也〔孟子〕

娛斯文 〔後漢〕班固の文に出づ

石韞玉 〔晉〕陸機の文に出づ内に學徳ある意

脩國章 〔文選〕顧延之 國章は國の禮儀をいふ

仁風衍 一一而外流〔同〕〔後漢〕張衡

石點頭 〔中興紀聞〕梁の高僧聽聞者なきより石を

集めて至理を談せしに石みな點頭せりと

慘不驕 中天懸明月令嚴夜寂寥悲笳數聲動壯士一

〔唐〕杜甫 軍紀嚴なるをいふ

鶯花海 〔宋〕陸放翁 春うららかなる處

存素心 作人要存一點素心〔菜根譚〕よく平常

心を保つべし

四字

連柯并穗 〔古事記序〕

潤德光身 一一莫尚於文〔懷風藻序〕

調風化俗 一一孰先於學〔同〕

聖哲同致 〔經國集〕菅原清公儒佛趣は一なり

明淨直誠 〔續日本紀宣命〕又清明正直とも

居今觀古 〔本朝文粹〕大江以言

優暢情性 〔同〕菅原道真

長養精神 〔同〕同

農畝普液 〔同〕紀長谷雄

自然合理 〔同〕同

恢弘道藝 〔同〕三善清行

盛行經綸 〔五箇條御誓文〕

履正執中 〔昭和八年詔〕

學于古訓 〔書經〕古聖王の訓を學ぶ

惟德是輔 皇天無親一一〔同〕

允執其中 惟精惟一〔同〕

敬敷五教 〔同〕舜契を司徒に任じ文教を司ど

り五常の教を敷かしむ

研精覃思

飛必冲天

淑慎其身

達人觀

高朗令終

三光宣精

幽間貞專

雄心四據

確乎不拔

至道不損

教學相長

農為國本

慎終如始

冲讓居禮

訥言敏行

淵然而靜

行不由徑

幽鳥相逐

學如不及

晴好雨奇

文行忠信

勤謹和緩

篤信好學

澄心肅慮

游居有常

溫良恭儉讓

一必就有德

就有道而正

一守死善道

一身都是膽

一必就有德

濯足萬里流

一必就有德

山水有清音

一必就有德

人生感意氣

一必就有德

素懷有青山

一必就有德

豁達來長風

一必就有德

吐花竟不言

一必就有德

山花向我笑

一必就有德

橫戈從百戰

一必就有德

寒松千丈節

一必就有德

悠悠任去來

一必就有德

白雲抱幽石

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

一必就有德

呼童鶴誤來

五字

光華照六合

明義在王師

皇風洽六合

眼與山水青

丹心貫日月

匪石不可轉

久坂義助

志操堅きをいふ

和樂坦易

大巧無術

藏巧於拙

無事為福

政本於道

溫良恭儉讓

就有道而正

一身都是膽

濯足萬里流

山水有清音

人生感意氣

素懷有青山

豁達來長風

吐花竟不言

山花向我笑

橫戈從百戰

寒松千丈節

悠悠任去來

白雲抱幽石

呼童鶴誤來

雍容時卷舒（宋）蘇東坡  
仰視浮雲白（宋）文天祥  
至人只是常〔菜根譚〕

六字

斥浮華尚質實〔昭和元年勅〕  
樂閑放養幽情〔本朝文粹〕大江朝綱  
飽於德醉於恩〔同〕紀長谷雄  
動天地感神祇〔古今集序〕  
明大義正人心藤田東湖  
憂勞興逸豫亡〔本朝三字經〕豫はよろこぶ  
百術不如一清松陰の叔父玉木文之進夙に橘良基の風を慕ひ居常此の六字を刻して佩ぶと

慎厥初惟其終いふ  
以禮承天之休〔左傳〕休は福祿をいふ  
君子交淡如水〔莊子〕  
幽顯無愧於心〔同〕  
強本事去無用一然後民可使富〔管子〕本事は農蠶百工の事なり  
務五穀育六畜〔同〕牛馬羊豕雞犬を六畜といふ  
閑居可以養志一詩書足以自娛〔後漢書〕  
游山澤觀魚鳥〔晉〕嵇康  
勁松影於歲寒〔晉〕潘岳の文に出づ  
展三時之弘務同春夏秋の農務を展ぶ

披雲霧觀青天〔晉書〕明白の貌  
黃葉落白雲掃〔寒山詩〕  
一夜話十年書〔程伊川語錄〕  
酒以不勸爲歡〔菜根譚〕

七字

獨臥雲中不限年空山幽靜水深淺一〔本朝文粹〕紀長谷雄  
樹下清涼苔自繁一雖當赤日似黃昏〔同〕源順  
梅花帶月一枝新歲晚天寒誰是友一僧寂室  
心頭無事一牀寬僧鍊石  
舟可行水車則陸鄉黨元旦會九族和氣油然相親睦昔日雖知非

不聞人語只看天真知一 中江藤樹  
皇天后土諒吾心西鄉南洲  
誠心默々對明神橋本左内  
浩々如黃河東注高杉晋作  
閑在腰間未用渠〔魏書〕才智の多きに譬ふ  
手弄素月清潭間〔唐〕李白 渠は劍をさす  
放馬天山雪中草同  
坐臥閑房春草深〔唐〕李頎  
但能心靜即身涼〔唐〕白樂天  
露似眞珠月似弓同  
萬里風煙接素秋〔唐〕杜甫 素秋は秋氣白きよりいふ

不叩權門叩道門

誰知野性真天性——

萬里煙塵一劍掃

（明）李夢陽

寒流石上一株松

他日期君何處好——

春愁多在暮山中

莫上高樓看柳色  
——（清）趙執信

煮芹燒筍餉春耕

（唐）盧同  
（宋）蘇東坡 餉は辨當をつかふこと

四言二句

子愛海內君臨宇中

（經國集）天地四方を宇中といふ

淡雲籠月照梨花

同

風烟幽奇水石清麗

（本朝文粹）源順

無言對客本非禪

（宋）程明道

花隨風落葩渡水來

同

萬物靜觀皆自得

（四時讀書樂）此の詩

水銜山影山任波心

（同）橘正通

綠滿窓前草不除

（宋）朱熹の作と傳ふ

紅葉隨風碧窓帶雨

（同）大江朝綱 殖は植に同じ

援琴一奏來薰風

（同）蘇東坡

德籠乾坤仁被動殖

（同）藤原雅材 靈禽拔俗志在千里禽は鶴をさす

魚鳥依然笑我頑

同

靈禽拔俗志在千里

道人有道山不孤

（宋）王安石

道宜合理 事貴得中  
賢能爲源 學校爲本

〔同〕源英明  
治國之道賢能爲源  
得賢之方學校爲本

靜以修身 儉以養德  
寄心清尚 悠然自娛  
清琴橫牀 濁酒半壺  
童冠齊業 間咏以歸  
（蜀）諸葛孔明  
（晉）陶淵明  
同 童者も冠者も齊しく風し且落して詠じて歸る

出自幽谷 遷于喬木

〔詩經〕人の善に遷るに譬ふ

運用之妙 存於一心  
（唐書）兵法の妙をいふ

王奮厥武 如震如怒  
庸言之信 庸行之謹

〔同〕  
〔易經〕平生の言行漫ならず

戰如風發 攻如河決  
落花無言 人淡如菊  
（三略）  
〔詩品〕秋色幽靜人また恬淡

務在四時 守在倉廩

〔管子〕

明不傷察 直不過矯  
一念之慈 和風甘露  
素琴橫月 短笛吟風  
〔同〕  
〔同〕

古之良工 不爲玩好

〔同〕

思索生知 慢易生憂

〔同〕

卜居清曠 以樂其志

〔後漢書〕

君子游道 樂以忘憂

〔文選〕楊子幼

惠風廣被 澤洎幽荒

〔同〕張衡

五言二句

壽共日月長

德與天地久

川鳴知夜靜  
持志藉書力

氣冷識天空  
消憂依酒功

山幽仁趣遠

川淨智德深

白雲飛驛路

芳草到皇京

芳梅含雪散

嫩柳帶風斜

屋老松生瓦

門間鶴護扉

晚燕吟風還

新雁拂露驚

林鳥結夢安

草蟲引聲永

和風催柳絮

殘雪伴梅花

敬神與奮武

確乎舊典存

茶鼎一爐火

茅堂半夜霜

學本期報國

教亦在拯世

溪聲清客夢

燈色冷詩腸

丈夫素有志

不在求紫綬

遠山如有雨

高樹似無枝

道既無形體

心何有拘泥

幽蘭生前庭

含薰待清風

荷風送香氣

竹露滴清響

開春理常業

歲功聊可觀

松月生夜涼

風泉滿清聽

有時農事閑

斗酒呼鄰里

野館濃花發

春帆細雨來

魚戲新荷動

鳥散餘花落

風起春燈亂

江鳴夜雨懸

我心素已閒

清川澹如此

遠鷗浮水靜

輕燕受風斜

牧童望邨去

田犬隨人還

以文常會友

惟德自成鄰

松含風裏聲

花對池中影

對酒雲數片

捲簾花萬里

明月松間照

清泉石上流

看花尋徑遠

聽鳥入林迷

送此萬里目

曠然散我愁

撥雲尋古道

倚樹聽清泉

獨散萬古意

閑垂一溪釣

喬木千齡外

懸泉百丈餘

花暖青牛臥

松高白鶴眠

卷幔天河入

開窓月露微

邊月隨弓影

胡霜拂劍花

賢哉常宴如

回也一瓢飲

月色徧秋露  
 擲水月在手  
 野水無人渡  
 葉凋山寺出  
 新泥添燕戶  
 亂山徐吐日  
 排雲數峯出  
 人行秋色裡  
 衆草名難識  
 簑笠幾風雨  
 潮聲寒帶雨  
 水明疑有月  
 窓竹含煙重  
 野澤鳴山雉  
 疎鐘隔雲度

竹聲兼夜泉  
 弄花香滿衣  
 孤舟盡日橫  
 溪瘦石橋高  
 細雨濕鷺衣  
 積水遠生煙  
 漏日半江明  
 雁落客愁邊  
 孤花影自閑  
 江山無古今  
 山色淡生秋  
 煙淡欲無山  
 庭梧下吹輕  
 荒陂起寒鴻  
 殘葉映雲流

(唐)李颀  
(唐)于良史  
(宋)寇準  
(宋)陸放翁  
同  
(宋)楊誠齋  
(宋)方岳  
(宋)張弋  
(宋)宋伯仁  
(元)黃庚  
(元)何中  
(明)高岱  
(明)王洪  
(明)華森

七言二句

窓明山翠近  
 地靜葉聲多  
 同  
 凍雲連海色  
 枯木助風聲  
 (明)許宗魯  
 日月無私照  
 乾坤仰聖功  
 (明)李東陽  
 詩興風樓笛  
 棋聲雪舫燈  
 (明)楊基  
 林靜無殘葉  
 燈寒有落花  
 (明)陳鶴  
 野梅含水白  
 漁舍逗烟青  
 (清)宗渭

德被馬蹄之所極  
 化照船頭之所逮  
 (古事記序)  
 仁流秋津洲之外  
 惠茂筑波山之陰  
 (古今集序)  
 遠視行人知野徑  
 近依歸鳥曉高林  
 石川丈山  
 振衣大嶽寒光動  
 倚劍中原紫氣來

萬里携來江海氣

高野蘭亭  
一樽傾盡古今心  
服部南郭

世情類逐浮雲變

吾道長懸片月孤  
香茶山

許國心肝三尺劍

傳家忠義一編書  
同 楠公の忠誠を詠す

田翁不解憐春意

自向落花深處耕  
尾藤二洲

吟詩聲苦疑秋蟋

戲墨行疎似暮鴉  
梁川星巖

黃蘆半老風無力

白雁高飛月有聲  
安積良齋

秋聲不必因風至

涼意唯應與月來  
廣瀬淡窓

一樣春風花早晚

百年人事夢間忙  
廣瀬旭莊

誓掃胡塵不顧家

懸軍萬里向邊沙  
藤森弘庵

朝夕追隨唯丹心

風檐展書對蒼天  
藤田東湖

滿腔何物浩然在

不避千艱與萬難  
久坂義助

江上清風疎髯動

山間明月仙骨輕  
冲剛介

雀唳橫江夜寥寥

于今千秋有遺響  
同 共に赤壁の圖に題す

蒹葭風定秋江闊

數點流螢映人飛  
〔日本詩選〕 失名 曠映に

荒村日落煙猶細 遠岫雲幽鳥獨歸 日斜江上孤帆影 草綠湖南萬里情

春來徧是桃花水 不辨仙源何處尋 細雨濕衣看不見 閑花落地聽無聲

故園高枕度三春 永日垂帷絕四鄰 拂水柳花千萬點 隔樓鶯舌兩三聲

千里萬里春艸色 黃河東流流不息 芳樹無人花自落 春山一路鳥空啼

一身轉戰三千里 一劍曾當百萬師 渡頭輕雨灑寒梅 雲際溶々雪水來

臺頭有酒驚呼客 水面無塵風洗池 同看天際下中流 岩上無心雲相逐

更無俗物當人眼 但有泉聲洗我心 山頭望湖光潑眼 山下濯足波生指

同 但 有 泉 聲 洗 我 心 水 清 石 出 魚 可 數 林 深 無 人 鳥 相 呼

〔本朝麗藻〕失名

(唐)王維 俗境も仙境も 香として區別つかず

同

同

同

(唐)白樂天

同

半山落日樵相語 一徑寒松僧獨歸

長空孤鳥望中沒 落日數峯烟外青

燕子不來花又落 一庭風雨自黃昏

萬點落花舟一葉 載將春色過江南

英雄心事無古今 神物風雲各有時

杜宇一聲青嶂外 溪流時送落花來

閑來掃石坐竹裏 靜與山人論素心

寒依疎影蕭々竹 春掩殘香漠々苔

同 來往亭前踏落花

同 溪柳自搖河水清

同 霜風枝上犯寒開

(宋)薛嶠

蜀江無語抱南樓

(宋)范成大

三月風前薄命花

(宋)劉翰

老死南陽未必非

(宋)陸放翁 孔明南陽草 廬に老死したりとするも亦 可なりとするなり

遊人不管春將老

野桃含笑竹籬短

只有梅花耐清苦

漢樹有情橫北渚

五更枕上無情雨

躬耕本是英豪事



柳絮池塘香入夢

(明)高青邱  
梨花庭院冷侵衣

一上孤峯眺大荒

(明)袁凱  
吳山楚水共蒼茫

片雨隔村猶夕照

疎林映水已秋風  
地なり

寒山常帶斜陽色

(明)張羽  
新月偏明落葉時

連天細雪因風急

(清)趙執信  
近郭空煙接月生

霜枝淡處三更月

同  
山果紅時數點鴉

(清)張問陶

### 歛識備考

#### 落 歛

詔勅神號等には本姓名を署し、「敬書」「拜題」「謹寫」などとする。印は姓名・字のを用ひ、雅號印を避け且關防印を遠慮する。

雙歛(爲書)には、先方を敬して、雅號を署しても自分の名を添へるのが禮である。

尤も下輩に與へる場合は此の限りでない。

「高山<sup>姓</sup>一郎書」「白雲<sup>名</sup>一郎書」「白雲高山一郎書」などはよいが「高山白雲書」は遠式である。

自題には「書」とせず、古人の詩句には某書とするのが例である。尤も世間周知の語には必ずしも之を要しない。

癸卯元旦試筆などとあるとき、又は「録李白詩」などあるに、更に某書とするのは重複である。

干支に元號を冠するときは、其の位置が下らぬやうに注意すべきである。

印は白文（陰）を上、朱文（陽）を下にする。序ながら芭蕉の遺語に「肩衣のゆがみを直し侍らば袴にも心を付て扇をさして見給へ」といふのがある、折角の好書も、雅印のお粗末なために遽かに興ざめを覚えるものである。書を嗜むほどの人は、相當の篆刻家に囑して刻せしめるがよい。

### 歳時異名

十干

甲	闕逢 <small>アツボウ</small>	乙	旃蒙 <small>センモウ</small>	丙	柔兆 <small>ジウヂョウ</small>	丁	強圉 <small>キヤウイ</small>	戊	著雍 <small>チヨウヨウ</small>	己	屠維 <small>トビ</small>	庚	上章 <small>ジャウシヤウ</small>	辛	重光 <small>チュウクワウ</small>
---	------------------------	---	------------------------	---	-------------------------	---	------------------------	---	-------------------------	---	----------------------	---	--------------------------	---	--------------------------

壬	玄默 <small>ゲンボク</small>	癸	昭陽 <small>セウヤウ</small>
---	------------------------	---	------------------------

十二支

子	困敦 <small>コンドン</small>	丑	赤奮若 <small>セキフンジャク</small>	寅	攝提格 <small>セツテイカク</small>	卯	單闕 <small>ダンアツ</small>	辰	執徐 <small>シツジヨ</small>	巳	大荒落 <small>ダイクワウラク</small>	午	敦牂 <small>トンサウ</small>	未	協洽 <small>ケフカフ</small>
---	------------------------	---	----------------------------	---	---------------------------	---	------------------------	---	------------------------	---	----------------------------	---	------------------------	---	------------------------

申	涇灘 <small>トンダン</small>	酉	作噩 <small>サクガク</small>	戌	閼茂 <small>エンボ</small>	亥	大淵獻 <small>ダイエンケン</small>
---	------------------------	---	------------------------	---	-----------------------	---	---------------------------

春 陽春 芳春 青陽

一月 孟春 太簇ダイソウ 陔月スウ 王正 王春 開春 孟陔 歲端 端月

二月 仲春 夾鐘カウレウ 令月

三月 季春 姑洗コセン 暮(莫)春 晚春

夏 朱夏 朱明 炎陽 槐序クワイジ

四月 孟夏 中呂チュウロ 首夏

五月 仲夏 蕤賓スイヒン 蒲月 盛夏

六月 季夏 林鐘リンショウ 晚夏

秋 素秋 高秋 清秋 金商

七月 孟秋 夷則イソク 初秋

八月 仲秋 南呂ナンロ 桂月

九月 季秋 無射ムセキ 晚秋

冬 玄冬 玄英 元序

十月 孟冬 應鐘オウショウ 初冬

十一月 仲冬 黃鐘ワウショウ

十二月 季冬 大呂ダイロ 臘月 蜡月サ 嘉平月 除月 歲晚

餘技翰墨必携終

340  
1.053

昭和十四年三月四日印刷  
昭和十四年三月十日發行

餘技翰墨必携  
定價 金四拾錢

著者 文部書道同好會

不許  
複製

發行所 齋藤虎起智  
東京市神田區錦旗町三丁目三番地

發行所

東京市神田區錦旗町三丁目

玉川堂

電話東京六三六〇番  
電話九段一七〇三・一七〇五番

終

